報告事項第 35 号

富山地方鉄道立山線の再構築事業について

1. 地鉄立山線の再構築事業までの経緯について

地鉄の鉄道事業は、輸送密度が低い一方で路線全長が 93.2 キロメートルと長く、維持管理のコストがかさむ赤字経営の状況が続いていることから、本線・立山線・不二越上滝線の不採算区間等について、廃線とする方針が富山地方鉄道㈱(以下「地鉄」という。)から示された。

富山県、沿線自治体は、地鉄とともに構成する「あり方検討会」及び路線毎に議論する「分科会」を設立し、鉄道線存続に向けた議論を行ってきた。

令和8年度に入り、県東部の広域的な鉄道ネットワークとして、再構築に向けた調査・検討を進める段階に入ったことから、県が事務局となる「富山地方鉄道鉄道線再構築検討会」に改組。

その下で立山町が事務局となる「立山線部会」を設立し、令和9年度からの再構築事業実施に向けて、事業構造の変更をはじめ、今後 10 年にわたる鉄道施設の「機能向上」及び「利便向上」施策の検討や再構築事業実施に必要な「再構築事業実施計画」の策定を進めている。

2. 再構築事業で検討中の主な施策及び事業費

❶鉄道施設の機能向上　22.2 億円（国 1/2、県 1/4、市町村 1/4）

安全・安心、乗り心地改善、維持管理費の減少につながる整備等

- ・レール交換(重軌条化等)
- ・枕木交換(パンドロール化)
- ・踏切保安設備改良
- ・列車集中制御装置改良
- ・通信ケーブル高速化
- ・トンネル改修
- ・変電所・変成機器更新
- ・中古車両・保守用車両の導入
- ・クレジットカード・タッチ決済導入

ほか

❷鉄道施設の利便向上　17.6 億円※（国 1/2、県 1/4、市町村 1/4）

※事業箇所・内容・事業費は富山地方鉄道株式会社の協議により変更あり

利用者を増やすための施設整備等

- ・パーク＆ライド駐車場整備
- ・榎町駅トイレの改修・周辺環境整備
- ・駅舎等改修(バリアフリー等)
- ・新車両の導入(2両1編成)

3. 今後の予定

・11 月下旬　富山地方鉄道鉄道線再構築検討会・第3回立山線部会
- ・利便向上策の協議結果
- ・鉄道事業再構築実施計画の素案提示

・12 月下旬　富山地方鉄道鉄道線再構築検討会・第4回立山線部会
- ・鉄道事業再構築実施計画の決定

国へ鉄道事業再構築実施計画を提出・・・・・R9.2 月認定

・R9.4 月～　鉄道事業再構築事業スタート（R9～R18）

【参　考】これまでの検討会・分科会等での主な議論

鉄道線のあり方検討会

■構成団体■ 関係自治体首長(富山県、沿線7市町村)、地鉄(第３回～)、運輸局(オブザーバー、第３回～)

第1回(R6.11.28 開催)　検討会設置、地域における鉄道線の重要性確認

第2回(R7. 2. 5 開催)　燃料・資材高騰への支援(総額２億円)

2分科会(立山線・不二越上滝線分科会、本線分科会)設置

第3回(R7. 8.27 書面)　立山線・不二越上滝線分科会を路線毎に分割

第4回(R7.12.24 開催)　3路線の検討状況、R8 支援(鉄道ネットワーク支援補助:総額４億円)

立 山 線 分 科 会

※第1回は不二越上滝線との合議体(立山線・不二越上滝線分科会)で開催

■構成団体■ 関係自治体首長(富山県、富山市、立山町)、地鉄(代表取締役社長)

第1回(R7. 6. 5 開催)　2路線(立山線、不二越上滝線)の検討状況、鉄道運営に係るモデル試算

第2回(R7. 9. 1 開催)　地鉄の「経営の範囲」に伴う「運営区間」の考え方

TKK、山麓観光旅館組合、山荘協同組合が知事へ存続要望(8/29)

知事「**観光路線として存続することを基本的な考えとする**」と発言

第3回(R7.11.22 開催)　立山線の必要性、利用者の経済波及効果

斜面防災(治山、砂防)の概要

R9 年度から再構築事業(岩峅寺駅～立山駅)の実施を目指すことで合意

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会

(本線部会と同時開催)

■構成団体■ 関係自治体首長(富山県、沿線7市町村)、地鉄(代表取締役社長)、運輸局(オブザーバー)
宇都宮教授(関西大学)、本田教授(富山大学)

第1回(R8. 5.18 開催)　検討会設置、3線区の検討状況

第2回(R8. 7.21 開催)　立山線部会(第1回部会)・不二越上滝線部会の報告

本線あり方調査事業(最終報告)の精査結果、便益計測

富山地方鉄道鉄道線全線を対象に再構築事業を検討することを確認

第3回(R8. 9.29 開催)　設置要綱の開催(立山線部会に立山黒部貫光㈱をオブザーバー参加)

再構築事業に係る事業構造の変更(みなし上下分離方式に決定)

再構築事業国庫補助事業費及び費用負担(本線機能向上分 50.8 億円)

立 山 線 部 会

■構成団体■ 関係自治体首長(富山県、富山市、立山町)、地鉄(代表取締役社長) 、
運輸局(オブザーバー)、立山黒部貫光(代表取締役社長、オブザーバー、第２回～)

第1回(R8. 7.21 開催)　**再構築事業の区間変更(寺田駅―立山駅)**、利便向上策案

第2回(R8.10. 7 開催)　立山線利用状況及び利用促進の取組(プロジェクトチーム)

斜面防災対策の進捗状況

再構築事業に向けた利便向上策(案)(継続協議)

再構築国庫補助事業費及び費用負担(立山線機能向上分 22.2 億円)

立山線利用促進プロジェクトチーム

■構成団体■ 富山県(交通政策局、観光推進局)、富山市、立山町、地鉄、TKK

第1回(R7.10.23 開催)　立山線乗降実態・観光客アンケート結果共有、意見交換

第2回(R7.11.17 開催)　ワーキンググループの利用促進策発表・検討、意見交換

第3回(R8. 2.20 開催)　組織毎の取組状況共有、町調査業務報告

第4回(R8. 6. 3 開催)　立山線・立山ケーブルケーブルカー利用状況、利用促進の取組